

歯の裏側からの矯正治療について

矯正器具の進歩により「違和感」「痛み」少なく、治療期間も短く

シリーズ・歯の健康相談

「歯並びはよくしたいけど、あの金属の器具が見えるのはちょっと…」と、歯の矯正治療に踏み切れない人も多いのでは。近ごろでは、矯正装置が目立たないように、歯の裏側に装着して矯正する方法も選んでできるようになっています。

そこで今回は、そんな最近の矯正治療について、「ほりい矯正歯科クリニック」の堀井和宏さんに聞きました。

そもそも矯正治療の大 つながります。これに大きな目的は、不正咬合(こ え、大人の場合は、出っ歯(ごう)から整った歯並 張った口元を整えて美し びにし、正常なかみ合わ くなりたいたと、治療を希 せをつくることです。自 望されることが多いよう 分の歯でよくかめるよう です。ところが、仕事な にすることが、健康にも どの都合で、歯の表側に



45歳女性。上・装置を装着し、治療開始。下・治療開始6カ月後。八重歯となっていた犬歯が歯列内に収まった。



ほりい矯正歯科クリニック・堀井和宏さん

装置を装着できない人もおられ、裏側から矯正する治療を選択する人が増えてきました。

従来の矯正装置のデメリットは？

これまで主に使われてきた歯の裏側の矯正装置は、1980年代に開発されたもので、表側に使用する装置より小さいものの、装着すると、その大きさや装置に付随するフックなどが、「違和感が強い」「話しにくい」「食事をするとき装置の間にも詰まる」といったデメリットを生じさせていました。

また、一般的に表側からの治療と比較して、治

左・従来の装置。右・新しく開発された装置。小さくなり、違和感が減少



療期間がかかるともいわれてきました。

最近の矯正装置の特徴

最近では、そんなデメリットに対応した装置が開発されています。

この装置の第1の特徴は、装置自体の大きさが従来より極めて小さく、違和感に最も大きく影響する「装置の厚みが薄い」ことです。

第2の特徴は、ワイヤも細いものを使用し、歯を弱い力で動かすことで従来より痛みを少なく

できること。以前よりも快適に治療を進められるようになっていきます。

第3の特徴は、やはり細いワイヤーを使用することで歯の移動がスムーズになり、治療方法の工夫と相まって治療期間が短くなるということです。

また、装置が小さいことで、それぞれの歯に装着した装置の間が広く、ものが詰まりにくいほか、装置と装置の間や、フックがないため装置と歯ぐきの間に歯ブラシが入れやすくなり、清掃性にも優れています。

◇ ◇ ◇

このように、歯の裏側からの矯正治療は、以前よりも身近なものとなっています。歯並びやかみ合わせに悩みながら、治療に踏み切れずにいる人には朗報ではないでしょうか。